

大名みえ子です

〒319-1112 東海村村松 2401-2
電話・FAX 029-284-0761
E-mail toukai@oona-mieko.info

行政視察と自主研修に 参加して ②

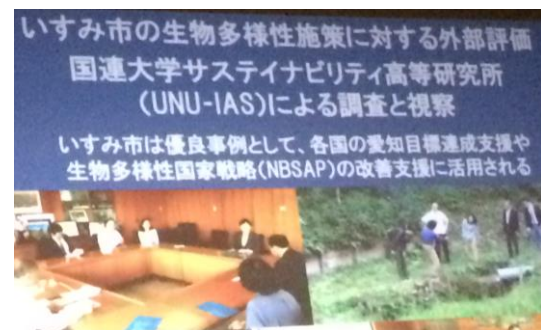
5日連続での行政視察・自主研修は、右記枠内のおりです。いずれも時宜にかなった内容で、大変参考になりました。

千葉県いすみ市の地域づくり

7月22日の自治体学校、特別報告は、千葉県いすみ市企画政策課職員による「いすみ市のめざす地域づくり」でした。

いすみ市は、生物多様性を生かした豊かな地域づくり、学校給食米のすべてを有機米に、食文化を育成し「美食の街」に、地域経済の中心の担い手は中小企業・農業と位置づける、などのとりくみを通じ、自治の力で地域を元気に、をめざしている自治体です。

7月20日(木) 群馬県みどり市岩宿博物館
群馬県高崎市かみつけの里博物館
7月21日(金) 山梨県南アルプス市ふるさと文化伝承館
7月22日(土) 自治体学校
記念シンポジウム=住民参加で輝く自治体を
特別報告=千葉県いすみ市のめざす地域づくり
7月23日(日) 自治体学校
分科会=公共施設とまちづくり
ナイター企画=わたしのまち、あなたのまちの
生活保護を考えてみよう
7月24日(月) 自治体学校
全体会=特別講演:社会教育・公民館の役割と地方
自治



いすみ市職員が報告時使ったパネルより

の生産) ④一次産業の底上げ ⑤環境のまちいすみ=いすみブランドの構築(環境創造型企業の誘致)
⑥新たな観光産業の振興 ⑦豊かな自然環境を未来の子ども達に継承

はじめは、無農薬栽培にあたり十分な準備ができなかったため、農家の意見も「無農薬栽培は今のままでは続けられないし広がらない」だった。そこで取組みを「学びの姿勢」に転換。「有機稲作指導機関」をいすみ市に招きながら、技術を本格的に学び実践する「有機稲作モデル事業」をスタートさせた。また、「学校給食米の全てを有機米に」を目標に掲げ、2016年には市内全小中学校の学校給食270俵(約40%)に導入している。子どもたちの健康面、情緒面・心理面への影響、これを契機に子ども達の農家への想いを導く、環境に配慮した農産物の地産地消促進、身土不二の価値観を広げ、しいてはいすみ市・いすみ米「いすみっこ」の全国PRにつなげる。国連大学サステナビリティ高等研究所から優良事例として評価され各国への支援に活用されている。現在、鹿児島県鹿屋市柳谷自治公民館長から「土着菌」を学び、国の交付金を活用し土着菌農法の本格化を目指している。

【美食の街いすみ】 「ここだけのもの、今だけのもの、あなただけのもの」をつくり、いすみ市の産物をブランド化(いすみブランド)し、全国に販売して市域の所得向上をめざす。さまざまな取り組みを通じていすみ市を「美食の街」として確立し、地域創生の柱とする。地域全体の食材レベル、料理レベルの向上を通じて地域所得や雇用の向上を図り、「美食の街サンセバスチャン化計画」を推進する。

〈大名の感想〉 街づくりの基本を「環境重視と市民の『心と体』の育成」とし、これを市のリーダーシップで市民とともに作りだしていることに感動。全国が学べるといいと思う。国政においても基本にしてほしい。